資料編

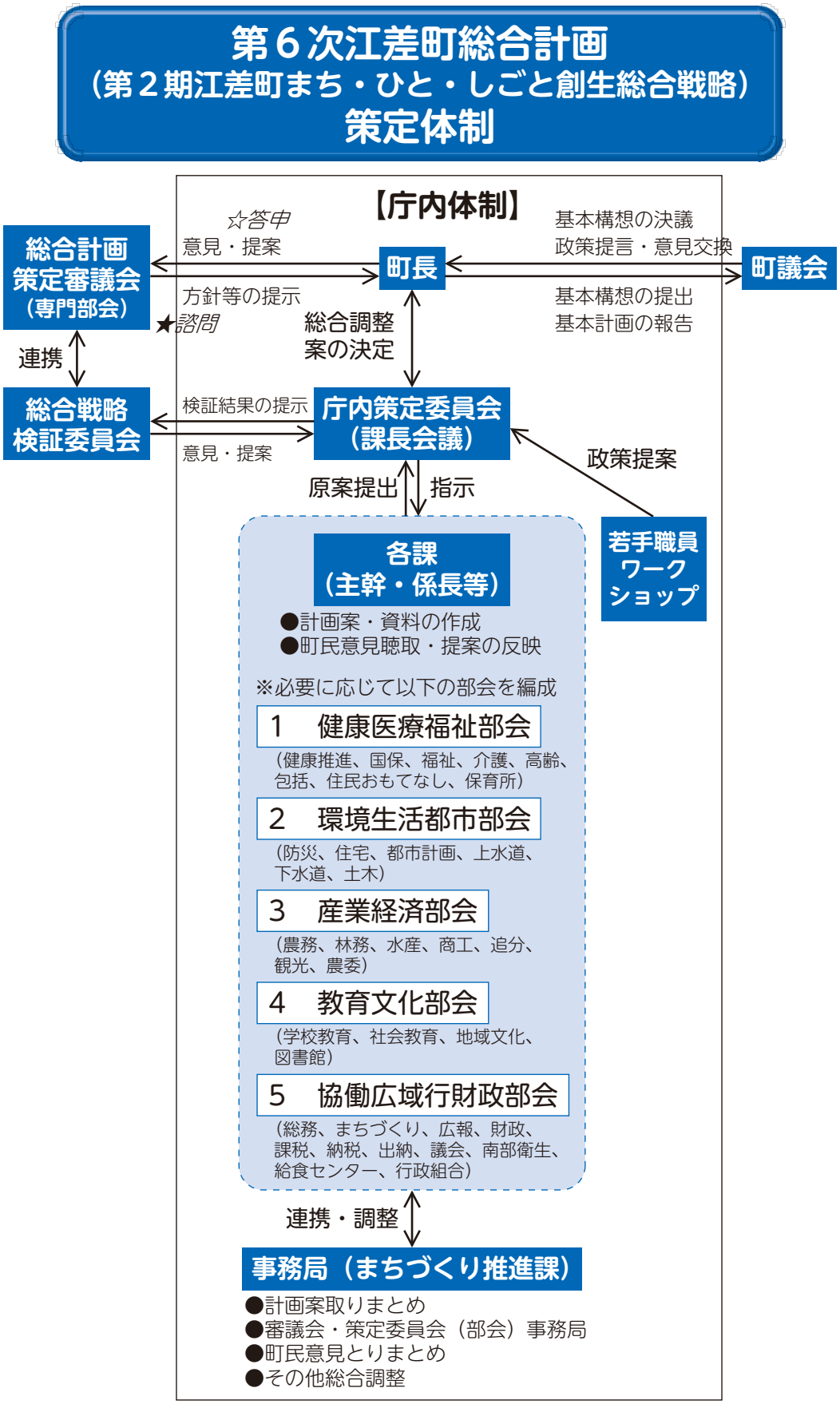


第１章　検討経過

年　月	内　容
平成 30 年 11 月～ 12 月	• 各課所管の個別計画把握調査の実施 • 子育て世帯に対する施策ニーズ調査の実施（平成 30 年度江差町子どもの生活実態調査の追加項目として「健やかな子どもの育ちのための政策」「子育て家庭への支援」を調査）
平成 31 年 １月	• 第１期総合戦略総括に向けた各課ヒアリングの実施
１月～２月	• 本計画策定に関する町民アンケート調査の実施
３月～４月	• まちづくりの課題等に関する転出者アンケート調査の実施
令和元年 ６月	• 本計画策定に関する町長インタビューの実施 • 江差町総合計画策定条例及び江差町総合計画策定審議会規則の制定 • 庁内策定委員会の開催（策定方針等説明）
７月	• 令和元年度第１回江差町総合計画策定審議会の開催（委員委嘱、町長諮問、策定方針、計画策定スケジュール等の審議） • 第１期総合戦略の庁内検証作業に着手 • 本計画策定に係る第１回町民ワークショップの開催（メインテーマ「10年後も夢や希望を持って住み続けられるまち」、サブテーマ「活力あるマチ」「安心して暮らせるマチ」とは）
８月	• 本計画策定に係る第２回町民ワークショップの開催（「活力あるマチ」のためには“お金を稼ぐ”、「安心して暮らせるマチ」のためには“必要な居場所づくり”） • 第１期総合戦略の庁内検証結果に係る意見照会の実施（対 総合戦略検証委員）
９月	• 町民ワークショップ意見を踏まえた政策提案を検討する第１回、第２回若手町職員ワークショップの開催 • 第５次計画の庁内検証作業に着手
10 月	• 町民ワークショップ意見を踏まえた政策提案を検討する第３回若手町職員ワークショップの開催 • 令和元年度第１回江差町総合戦略検証委員会の開催（平成 27 年度～平成 31 年度における取り組みの総括的検証を実施） • 町議会による江差町総合計画等特別委員会に出席（計画策定スケジュール等の説明）

年　月	内　容
令和元年 10月	• 庁内策定委員会の開催（若手町職員ワークショップによる政策提案） • 令和元年度第２回江差町総合計画策定審議会の開催（計画策定経過、本計画の策定フレーム、計画策定スケジュール等の審議）
11月	• 本計画策定に係る産業別まちづくり懇話会の開催（農業、漁業、商業、観光業） • 令和元年度第３回江差町総合計画策定審議会の開催（計画策定経過、第５次計画の総括検証結果、本計画素案、計画策定スケジュールの審議）
12月	• 江差町総合計画等特別委員会に出席（計画策定経過、本計画素案等の説明） • 令和元年度第４回江差町総合計画策定審議会の開催（計画策定経過、本計画原案、計画策定スケジュールの審議）
令和２年 １月	• 本計画原案に係るパブリックコメントの実施
２月	• 本計画原案に係るパブリックコメントの意見募集結果の公表 • 江差町総合計画等特別委員会に出席（計画策定経過、本計画原案等の説明） • 令和元年度第５回江差町総合計画策定審議会の開催（計画策定経過、本計画案、計画策定スケジュール等の審議）
３月	• 令和２年第１回町議会定例会において本計画基本構想が議決 • 庁内策定委員会の開催（本計画案等の説明）

第２章　策定体制


第６次江差町総合計画
（第２期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略）
策定体制
【庁内体制】
☆答申
意見・提案
基本構想の決議
政策提言・意見交換
総合計画
策定審議会
（専門部会）
町長
町議会
方針等の提示
★諮問
総合調整
案の決定
基本構想の提出
基本計画の報告
連携
総合戦略
検証委員会
検証結果の提示
庁内策定委員会
（課長会議）
意見・提案
政策提案
原案提出
指示
若手職員
ワーク
ショップ
各課
（主幹・係長等）
●計画案・資料の作成
●町民意見聴取・提案の反映
※必要に応じて以下の部会を編成
1　健康医療福祉部会
（健康推進、国保、福祉、介護、高齢、包括、住民おもてなし、保育所）
2　環境生活都市部会
（防災、住宅、都市計画、上水道、下水道、土木）
3　産業経済部会
（農務、林務、水産、商工、追分、観光、農委）
4　教育文化部会
（学校教育、社会教育、地域文化、図書館）
5　協働広域行財政部会
（総務、まちづくり、広報、財政、課税、納税、出納、議会、南部衛生、給食センター、行政組合）
連携・調整
事務局（まちづくり推進課）
●計画案取りまとめ
●審議会・策定委員会（部会）事務局
●町民意見とりまとめ
●その他総合調整

第３章　策定審議会

○江差町総合計画策定条例

令和元年６月 14 日
条例第 11 号

（目的）
第１条　この条例は、江差町総合計画（以下「総合計画」という。）の策定に関し必要な事項を定めることにより、総合的かつ計画的な町政の運営に資することを目的とする。
（定義）
第２条　この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。
⑴　総合計画　江差町（以下「町」という。）の最上位計画として、町のまちづくりについての基本的な指針であり、基本構想、基本計画及び実施計画からなるものをいう。
⑵　基本構想　町の目指すべき将来像とまちづくりの大綱を示すものをいう。
⑶　基本計画　基本構想を実現するための基本的な施策を体系的に示すものをいう。
⑷　実施計画　基本計画に定めた施策を具体的に進める事業を示すものをいう。
（総合計画の策定）
第３条　町長は、町における総合的かつ計画的な町政の運営を図るため、総合計画を策定するものとする。
（審議会への諮問）
第４条　町長は、基本構想及び基本計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ第８条第１項に規定する江差町総合計画策定審議会に諮問するものとする。
（議会の議決）
第５条　町長は、基本構想を策定し、又は変更しようとするときは、議会の議決を経なければならない。
（総合計画との整合性の確保）
第６条　町は、個別の行政分野における施策の基本的な事項を定める計画を策定し、又は変更するにあたっては、総合計画との整合を図るものとする。
（総合計画の公表）
第７条　町長は、総合計画を策定し、又は変更したときは、速やかにこれを公表するものとする。
（江差町総合計画策定審議会）
第８条　町長の諮問に応じ、基本構想及び基本計画の策定又は変更に関する事項について必要な事項の調査及び審議を行うため、江差町総合計画策定審議会（次項及び第３項において「審議会」という。）を置く。
２　審議会は、委員 20 名以内で組織する。
３　前２項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

（委任）

第９条　この条例の施行に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、公布の日から施行する。

（江差町総合計画策定審議会条例の廃止）

２　江差町総合計画策定審議会条例（昭和 43 年条例第 13 号）は廃止する。

（審議委員に関する経過措置）

３　この条例の施行の日の前日において、廃止前の江差町総合計画策定審議会条例の規定により審議会の委員である者は、この条例の規定により委嘱された委員として引き続き残任するものとする。

（総合計画に関する経過措置）

４　この条例の施行の際、現に策定されている基本構想及び基本計画は、この条例の規定により策定されたものとみなす。

○江差町総合計画策定審議会規則

令和元年６月 14 日
規則第９号

（目的）

第１条　この規則は、江差町総合計画策定条例（令和元年条例第 11 号）第８条第３項の規定に基づき、江差町総合計画策定審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第２条　審議会の委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

⑴　学識経験者

⑵　町内の公共的団体等の役職員

⑶　前２号に掲げる者のほか、町内に住所を有する者

⑷　その他、町長が特に必要と認める者

２　委員の任期は、当該諮問にかかる審議が終了するまでの間とする。

（会長及び副会長）

第３条　審議会に会長及び副会長各１名を置く。

２　会長及び副会長は、委員の互選によつて定める。

３　会長は会務を総理し、審議会を代表する。

４　副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代理する。

（会議）

第４条　審議会は会長が招集する。

２　審議会の議長は、会長がこれにあたる。

３　審議会は委員の定数の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

４　審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

５　審議会は、必要あると認められるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

（専門部会）

第５条　審議会に専門部会をおくことができる。

２　専門部会は、会長が審議会にはかり設置する。

３　専門部会に部会長及び副部会長をおき、部会に属する委員の互選によりこれを定める。

４　第３条第３項及び第４項の規定は、部会長及び副部会長の職務について準用する。

（庶務）

第６条　審議会の庶務は、まちづくり推進課において処理する。

（町長への委任）

第７条　この規則に定めるもののほか、審議会の運営について必要な事項は町長が定める。

附　則

この規則は、令和元年６月 14 日から施行する。

江差町総合計画策定審議会　委員名簿

氏　名	所属団体等	役　職	審議会役職
赤石　智恵美	江差商工会	会長	会長
古地　順一郎	北海道教育大学函館校国際地域学科	准教授	副会長
浅見　尚資	一社）北海道江差観光みらい機構	事務局長	
飯田　隆志	江差小学校ＰＴＡ	会長	
石岡　典子	江差幼稚園	園長	
植松　　愛	目谷旅館	女将	
小笠原　裕章	新はこだて農業協同組合	理事	
金子　　剛	江差町スポーツ協会	会長	
久米　早苗	江差町地域活性化協力隊	代表	
庄司　　寛	北海道放送株式会社函館放送局	局長	
田上　　香	地域支え合い協議体	副会長	
高岡　広明	江差町教育委員会	委員	
高島　慶太	江差整骨院	代表	
田中　利明	ひやま漁業協同組合江差支所	総代長	
田畑　昌伸	江差建設協会	会長	
中島　晶子	江差いにしえ資源研究会	事務局	
萩原　香澄	紫世会（江差追分道場）	指導者	
東野　政史	北海道檜山振興局	地域政策課長	
堀田　俊一	江差脳神経外科クリニック	事務長	
三上　修吾	西野会計株式会社江差事業部	所長（専務取締役）	

江　　推　　進
令和元年７月９日

江差町総合計画策定審議会
　会長　赤石　智恵美　様

江差町長　照井　誉之介

第６次江差町総合計画の策定について（諮問）

このことについて、江差町総合計画策定条例（令和元年条例第11号）第４条の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

記

１　諮問内容

第６次江差町総合計画の基本構想及び基本計画（第２期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略を含む）について

２　諮問理由

本町は、次代を担う人たちが夢を持てる町をめざした「第５次江差町総合計画」を平成23年３月に策定し、その指針に沿ってまちづくりを進めてまいりました。

このような中、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、本町は、「“故郷”を目指す若者が集うまち、江差」を目標に掲げた「第１期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年度に策定し、将来にわたり持続可能な町であり続けるための取組みを集中的に推進してきました。

「第５次江差町総合計画」は、本来、令和２年度をもって10年間の計画期間を終了することになりますが、「第１期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間が本年度をもって終了することから、「第５次江差町総合計画」を１年繰り上げて終了し、まちとして一体的な施策展開を図るため統合的に新たな両計画を策定することといたしました。



本町の少子高齢化や人口減少は一層進んでおり、地域コミュニティ等における担い手不足などまちづくりの様々な分野での影響が心配されるなか、高度情報化による行政サービスの簡素化・効率化や、価値観やニーズの多様化に伴う地方創生など、

地域の実情を踏まえたまちづくりが求められております。

また、2015 年 9 月の国連サミットで、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現のためのＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）が採択され、地方自治体の各種計画に最大限反映することが奨励されており、こうした社会構造の変化に対し、住民との連携・協働を図りながら的確に対応するとともに、地域の人材、資源を活かしながら、まちづくりを推進していかなければなりません。

ついては、「第 6 次江差町総合計画」及び「第 2 期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定にあたり貴審議会に諮問いたしますので、ご審議のうえご提言いただきますようお願い申し上げます。

令和２年２月21日

江差町長　照井　誉之介　様

江差町総合計画策定審議会
会長　赤石　智恵美

第６次江差町総合計画について（答申）

令和元年７月９日付け江推進で諮問のありました第６次江差町総合計画（第２期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略）について、当審議会で慎重に審議を重ねた結果、適切であると認め、下記の意見を添えて答申致します。

記

１　本総合計画に掲げた目指すまちの姿・理念にもとづき、「誇りある暮らしを未来へ紡ぎ、みんなでつくる自分たちごとのまちづくり　エエ町、江差。」の実現に向けて積極的に取り組むこと。

２　本総合計画に位置づける各施策は、「できる化」「仕組み化」に着実に取り組み、設定した成果指標を中心として継続的に効果検証し、その結果の「見える化」を図ることで町民と進捗を共有しながら、当審議会と共に計画を育てていくこと。

３　地域に遺る資源を守ることはもちろんですが、未来につなぐという観点を最重視し、社会情勢の変化へ的確に対応しながら、当審議会からの意見も参考に「江差の地域性」をとらえた事業展開を、柔軟かつ果敢に実施すること。

４　今後さらに人口減少・少子高齢化が進むなかでも、既存の慣習や枠組みにとらわれることなく多様なニーズに応えられるよう、寛容で包摂的な社会づくりに努めること。

５　本総合計画の策定過程において、町民アンケート調査及び町民ワークショップを通じて貴重なご意見・ご提案をいただきました。実施計画の企画・実行に際して、これらのご意見・ご提案が積極的に取り入れられるよう検討すること。



６　町の最上位計画である本総合計画を推進するにあたり、盛り込まれたすべての施策の統一的なキャッチフレーズとして「エエ町、江差。」を掲げ、あらゆる機会に活用すること。

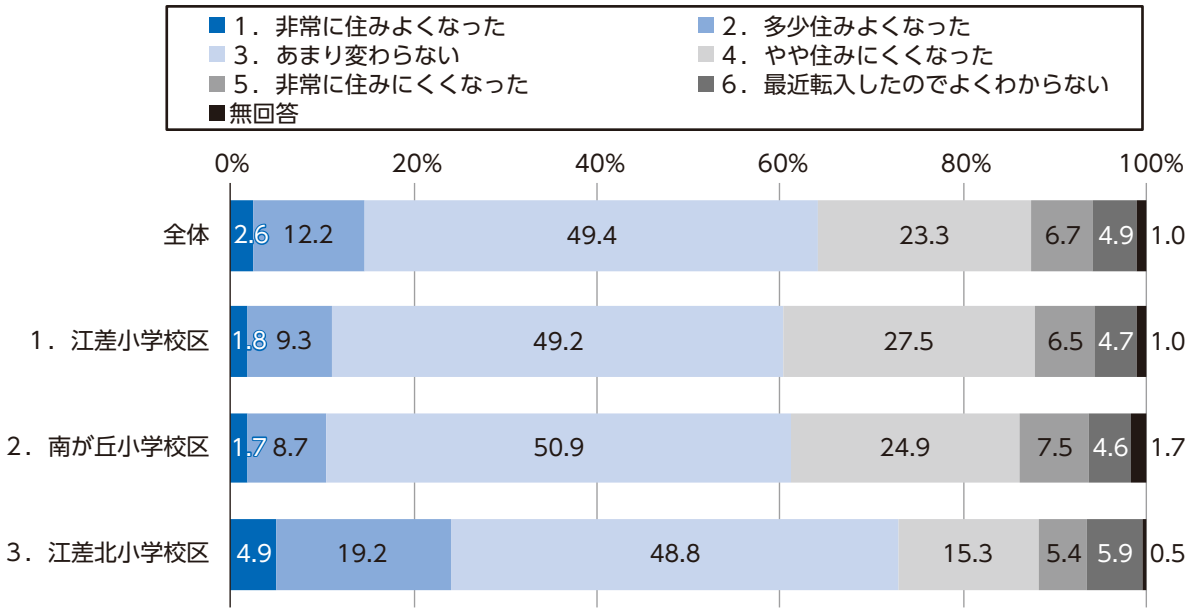
第４章　アンケート調査にみる町民の意識

１．江差町のよさ

• この 10 年ほどで、江差町は住みよくなったか（転入後 10 年未経過の方は、転入時との比較）

【地区別クロス集計】

	人数（人）	割合（%）						
		1. 非常に住みよくなった	2. 多少住みよくなった	3. あまり変わらない	4. やや住みにくくなった	5. 非常に住みにくくなった	6. 最近転入したのでよくわからない	無回答
全体	781	2.6	12.2	49.4	23.3	6.7	4.9	1.0
1．江差小学校区	386	1.8	9.3	49.2	27.5	6.5	4.7	1.0
2．南が丘小学校区	173	1.7	8.7	50.9	24.9	7.5	4.6	1.7
3．江差北小学校区	203	4.9	19.2	48.8	15.3	5.4	5.9	0.5



回答者のうち、住みよくなったと回答した方の割合（「非常に住みよくなった」と「多少住みよくなった」の合計）が 14.8% となっている。

地区別にみると、住みよくなったと回答した方の割合（「非常に住みよくなった」と「多少住みよくなった」の合計）は、江差北小学校区が他の２小学校区よりも高くなっている。

• 住みにくくなったと思う理由

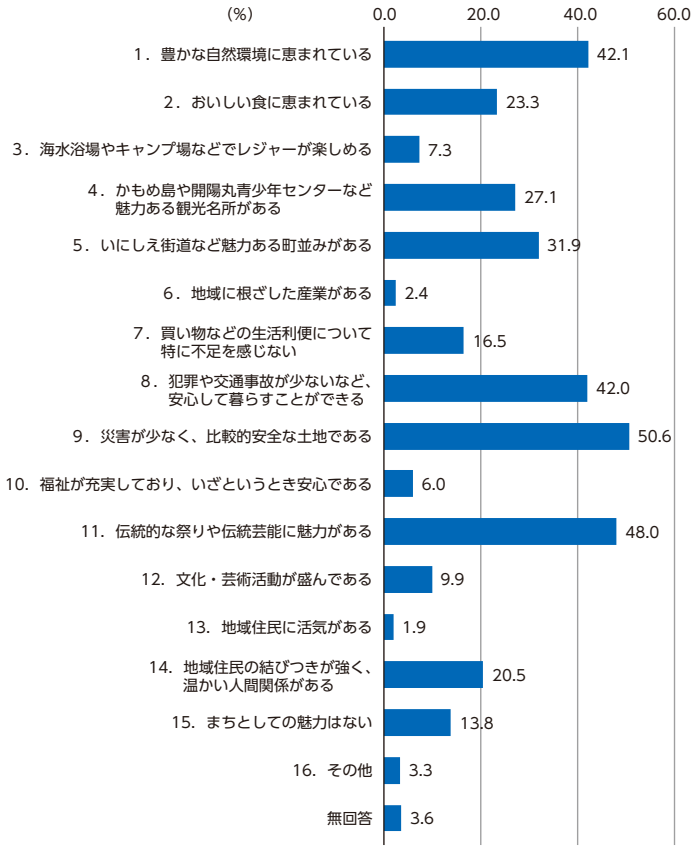
（「この 10 年ほどで～」において選択肢４または５を回答した方を対象）

	人数（人）	割合（%）
1．集会所や寺社など地域の施設の管理が十分でなく、荒れてきている	29	12.4
2．道路の維持が十分でなく、荒れてきている	43	18.4
3．土地や山林、河川が十分に管理されず、荒れてきている	33	14.1
4．有害鳥獣が増加し、一次産業が維持できなくなっている	12	5.1
5．働く場所が減った	122	52.1
6．地域に活気がなくなっている	176	75.2
7．地域の伝統行事や芸能が衰退してきた	50	21.4
8．ごみの不法投棄が増えた	17	7.3
9．空き巣などの犯罪が増加した	1	0.4
10．地域で冠婚葬祭などの助け合いがなくなった	35	15.0
11．災害の際にご近所が頼りにならなくなった	31	13.2
12．空き家が増加している	134	57.3
13．公共交通が不便になった	111	47.4
14．買い物できるところが減り、不便になった	137	58.5
15．医療や福祉が縮小し、老後が不安になった	149	63.7
16．その他	21	9.0
無回答	1	0.4
全体	234	

住みにくくなった理由としては、「地域に活気がなくなっている」と回答した方の割合が最も高く、ついで「医療や福祉が縮小し、老後が不安になった」、「買い物できるところが減り、不便になった」の順に割合が高くなっている。

• 江差町の魅力だと感じられるところ

	人数（人）	割合（%）
1．豊かな自然環境に恵まれている	329	42.1
2．おいしい食に恵まれている	182	23.3
3．海水浴場やキャンプ場などでレジャーが楽しめる	57	7.3
4．かもめ島や開陽丸青少年センターなど魅力ある観光名所がある	212	27.1
5．いにしえ街道など魅力ある町並みがある	249	31.9
6．地域に根ざした産業がある	19	2.4
7．買い物などの生活利便について特に不足を感じない	129	16.5
8．犯罪や交通事故が少ないなど、安心して暮らすことができる	328	42.0
9．災害が少なく、比較的安全な土地である	395	50.6
10．福祉が充実しており、いざというとき安心である	47	6.0
11．伝統的な祭りや伝統芸能に魅力がある	375	48.0
12．文化・芸術活動が盛んである	77	9.9
13．地域住民に活気がある	15	1.9
14．地域住民の結びつきが強く、温かい人間関係がある	160	20.5
15．まちとしての魅力はない	108	13.8
16．その他	26	3.3
無回答	28	3.6
全体	781	



回答者のうち、**「災害が少なく、比較的安全な土地である」**と回答した方の割合が最も高く、次いで**「伝統的な祭りや伝統芸能に魅力がある」**の割合が高くなっている。

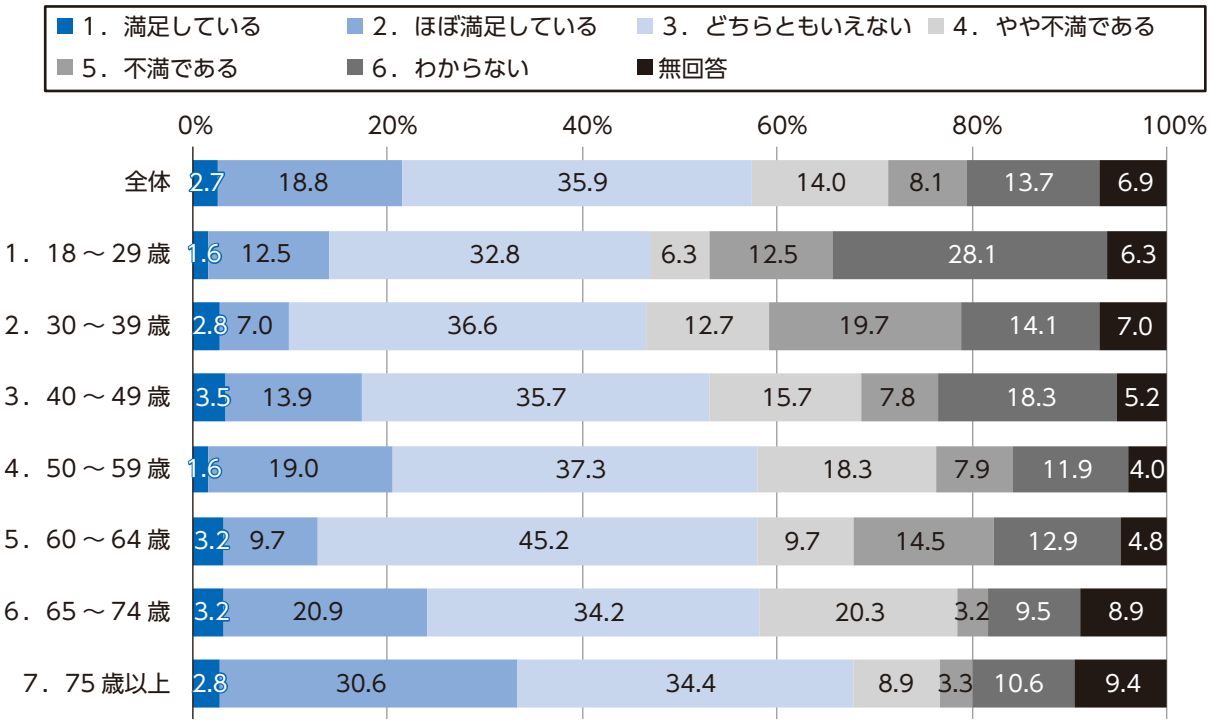
全体的に、自然や安全・安心、伝統芸能を町の魅力と感じている傾向がある。

2．江差町の政策への評価

• 総合的にみた江差町の取組みへの満足度

【年齢層別クロス集計】

	人数（人）	割合（%）						
		1．満足している	2．ほぼ満足している	3．どちらともいえない	4．やや不満である	5．不満である	6．わからない	無回答
全体	781	2.7	18.8	35.9	14.0	8.1	13.7	6.9
1．18～29歳	64	1.6	12.5	32.8	6.3	12.5	28.1	6.3
2．30～39歳	71	2.8	7.0	36.6	12.7	19.7	14.1	7.0
3．40～49歳	115	3.5	13.9	35.7	15.7	7.8	18.3	5.2
4．50～59歳	126	1.6	19.0	37.3	18.3	7.9	11.9	4.0
5．60～64歳	62	3.2	9.7	45.2	9.7	14.5	12.9	4.8
6．65～74歳	158	3.2	20.9	34.2	20.3	3.2	9.5	8.9
7．75歳以上	180	2.8	30.6	34.4	8.9	3.3	10.6	9.4



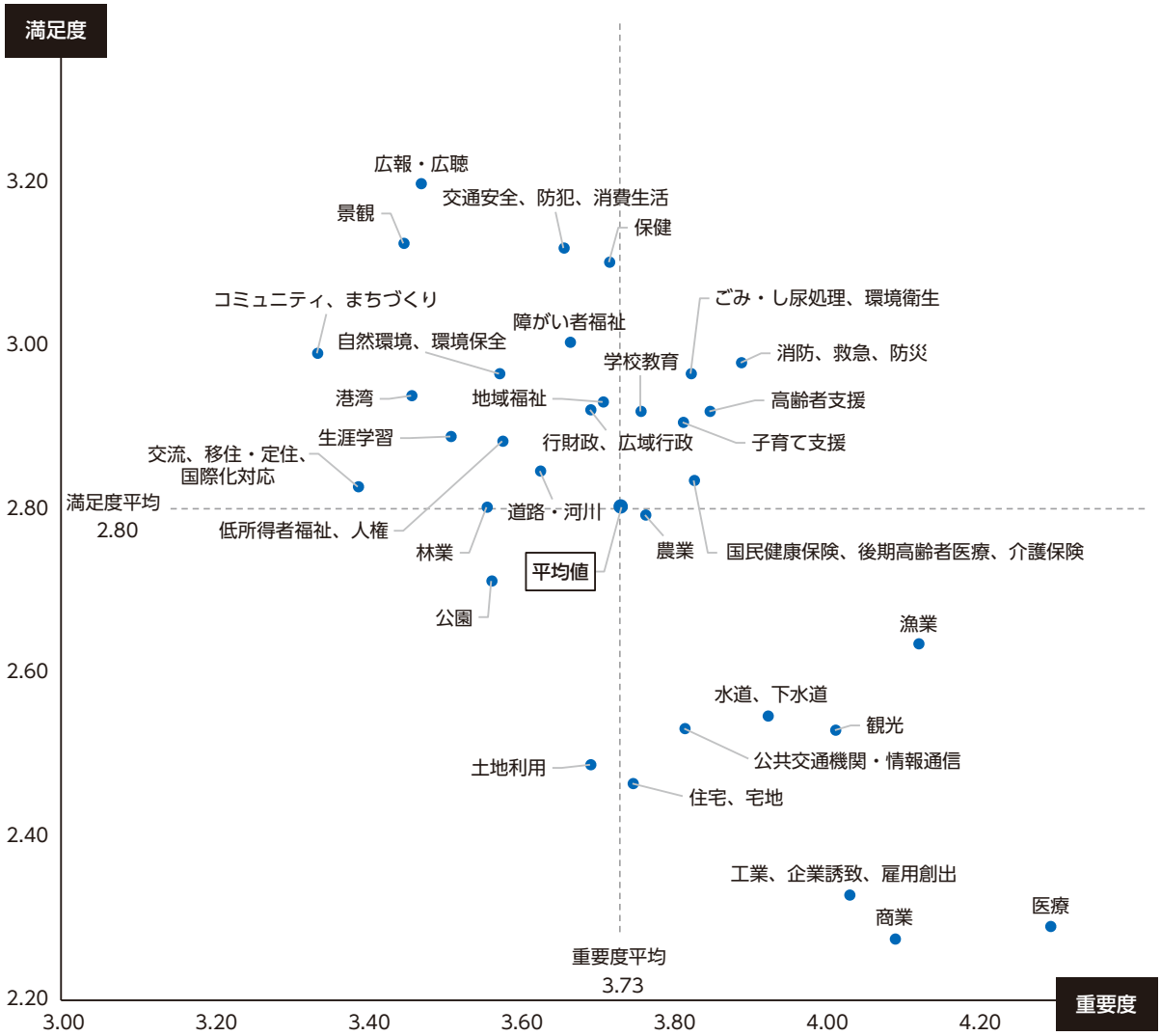
全体としては、満足度（「満足している」と「ほぼ満足している」の合計）が 21.5%、不満度（「やや不満である」と「不満である」の合計）が 22.1% と、不満度のほうがわずかに高くなっているが、おおむね同程度である。

満足度については、75 歳以上、65 ～ 74 歳が高くなっており、高齢者の満足度が高い。

不満度については、30 ～ 39 歳が特に高くなっている。

• 施策ごとの満足度

■ＣＳ分析



★グラフの見方

重要度は平均より低く 満足度は平均より高い 【維持分野】	重要度が平均より高く 満足度も平均より高い 【重点維持分野】
重要度は平均より低く 満足度も平均より低い 【改善分野】	重要度は平均より高く 満足度は平均より低い 【重要改善分野】

点数について

満足（重要）：５点
やや満足（やや重要）：４点
普通：３点
やや不満（やや重要でない）：２点
不満（重要でない）：１点

として、各選択肢の点数を、それを回答した人数で乗じ、その合計を回答者総数（無回答者を除く）で除したものを各施策の得点としている。

★重要改善分野に該当したもの

産業分野	農業
	漁業
	商業
	工業、企業誘致、雇用創出
	観光
生活環境分野	公共交通機関、情報通信
	住宅、宅地
	水道、下水道
民生・教育等分野	医療

満足度、重要度をそれぞれ点数化すると、特に重要改善度が高い（ＣＳ分析グラフの右下に位置している）のは「医療」となっている。

また、産業分野は、すべての施策が重要改善分野に該当している。

３．まちの活性化

• 総合戦略の住民評価

（以下の３つの目標に対する取組みへの評価）

①江差ブランド製品づくりで仕事をつくる

（産業基盤を強化し雇用を創出する）

これまでの主な取組
○江差町まちづくり推進交付金の創設（地域ブランド開発等支援）
○ふるさと納税特産品の充実
○農・漁業機械等購入費助成
○農業共済・漁船保険掛金助成
○がんばる商店街等応援補助
○一×二×三業懇話会の開催

②江差文化体験交流づくりで仕事をつくる

（新たな人の流れをつくり出し雇用を創出する）

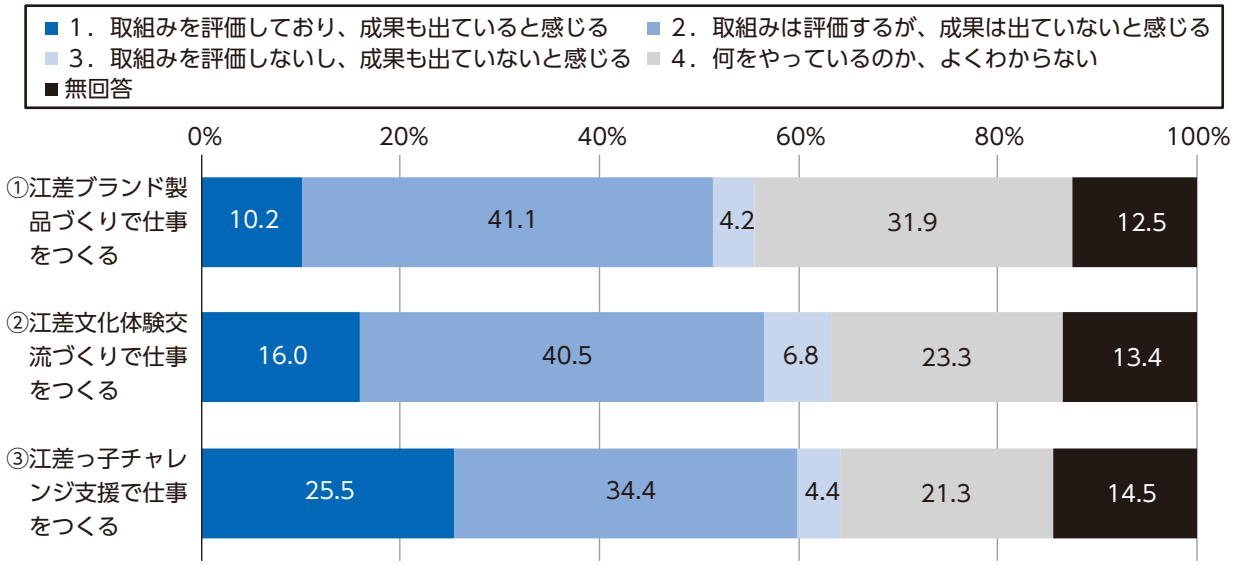
これまでの主な取組
○北の江の島構想の策定
○日本遺産の認定
○江差町観光まちづくり協議会の設立（DMO 推進協議会）
○一般社団法人北海道江差観光みらい機構設立（地域商社）
○江差観光情報総合案内所設置（開陽丸施設内）

③江差っ子チャレンジ支援で仕事をつくる

（若者チャレンジを応援し雇用を創出する）

これまでの主な取組
○江差町まちづくり推進交付金の創設（空き店舗等再生促進事業）
○住宅リフォーム助成
○子育て応援券の交付
○学校給食費助成
○第３子以降の保育料無償化
○子どもの医療費助成

	①江差ブランド製品づくりで仕事をつくる		②江差文化体験交流づくりで仕事をつくる		③江差っ子チャレンジ支援で仕事をつくる	
	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）
1．取組みを評価しており、成果も出ていると感じる	80	10.2	125	16.0	199	25.5
2．取組みは評価するが、成果は出ていないと感じる	321	41.1	316	40.5	269	34.4
3．取組みを評価しないし、成果も出ていないと感じる	33	4.2	53	6.8	34	4.4
4．何をやっているのか、よくわからない	249	31.9	182	23.3	166	21.3
無回答	98	12.5	105	13.4	113	14.5
全体	781	100.0	781	100.0	781	100.0

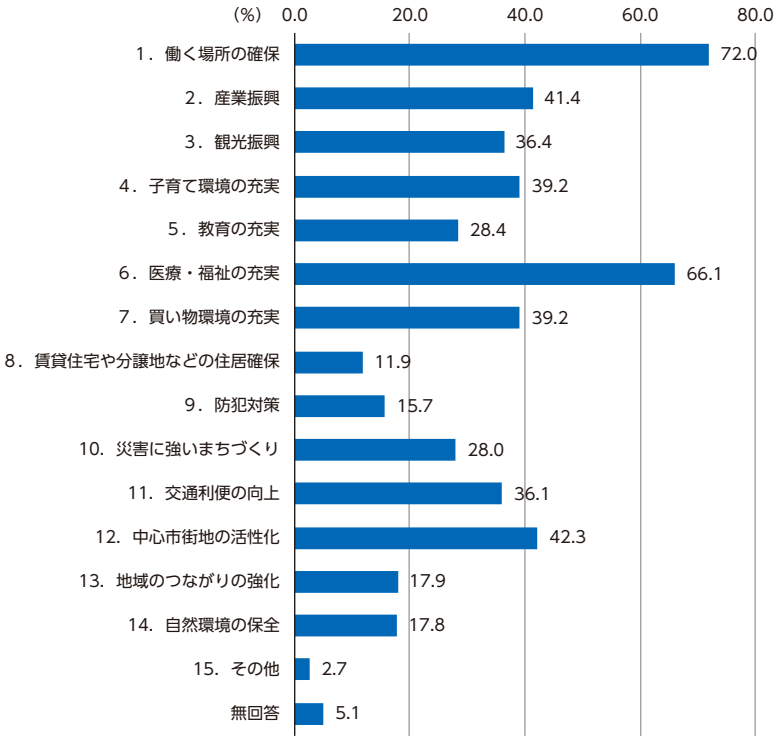


３つの目標の中で、住民の生活に直接的に影響する子育て支援等の取組みのある「江差っ子チャレンジ支援で仕事をつくる」の評価が最も高くなっている。

３つの目標いずれも、取組みを評価する（選択肢１と２の合計）と回答した割合は５割を超えていますが、その多くは、成果は出ていないと感じている。

• まちの活性化のために必要な取組み

	人数（人）	割合（%）
1．働く場所の確保	562	72.0
2．産業振興	323	41.4
3．観光振興	284	36.4
4．子育て環境の充実	306	39.2
5．教育の充実	222	28.4
6．医療・福祉の充実	516	66.1
7．買い物環境の充実	306	39.2
8．賃貸住宅や分譲地などの住居確保	93	11.9
9．防犯対策	123	15.7
10．災害に強いまちづくり	219	28.0
11．交通利便の向上	282	36.1
12．中心市街地の活性化	330	42.3
13．地域のつながりの強化	140	17.9
14．自然環境の保全	139	17.8
15．その他	21	2.7
無回答	40	5.1
全体	781	

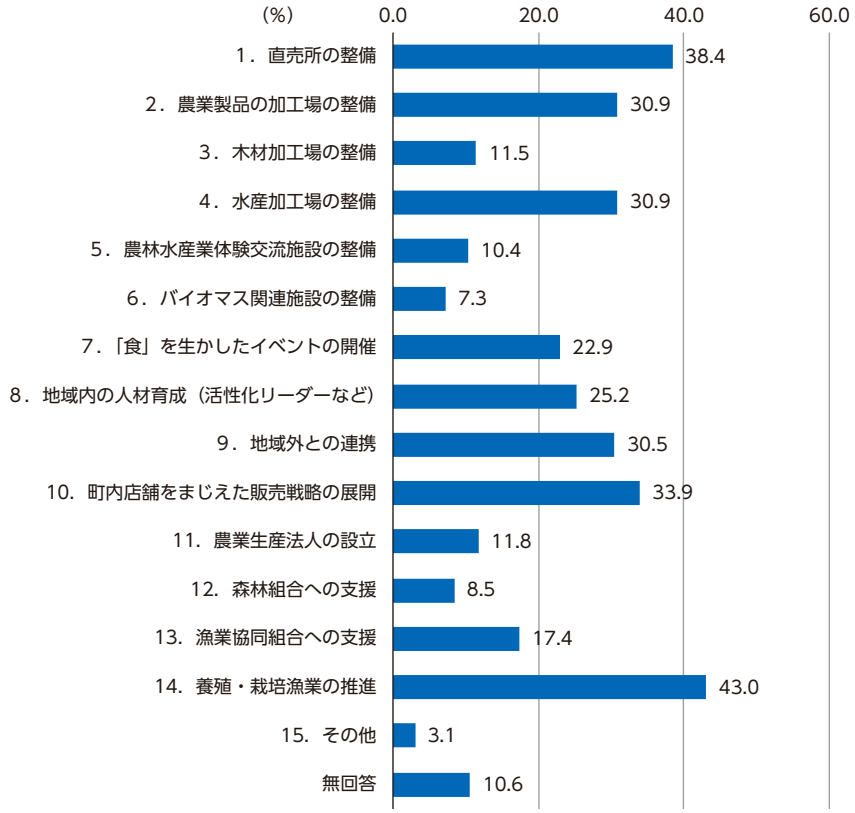


「働く場所の確保」を回答した方の割合が最も高く、ついで「医療・福祉の充実」と回答した方の割合が高くなっている。

今後も、まちの活性化のためには、雇用創出を軸にして施策を考える必要性を、住民も感じていることがうかがえる。

• 地場の資源を活用した仕事づくりのために必要なこと

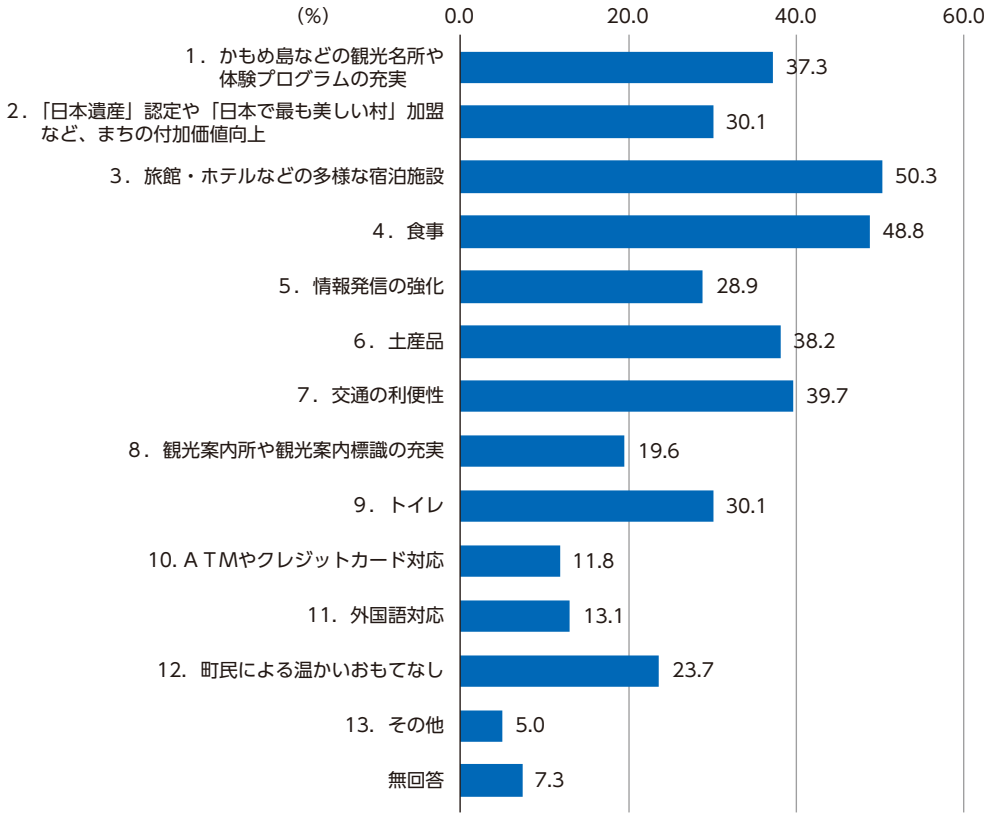
	人数（人）	割合（%）
1．直売所の整備	300	38.4
2．農業製品の加工場の整備	241	30.9
3．木材加工場の整備	90	11.5
4．水産加工場の整備	241	30.9
5．農林水産業体験交流施設の整備	81	10.4
6．バイオマス関連施設の整備	57	7.3
7．「食」を生かしたイベントの開催	179	22.9
8．地域内の人材育成（活性化リーダーなど）	197	25.2
9．地域外との連携	238	30.5
10．町内店舗をまじえた販売戦略の展開	265	33.9
11．農業生産法人の設立	92	11.8
12．森林組合への支援	66	8.5
13．漁業協同組合への支援	136	17.4
14．養殖・栽培漁業の推進	336	43.0
15．その他	24	3.1
無回答	83	10.6
全体	781	



「養殖・栽培漁業の推進」を回答した方の割合が最も高く、ついで「直売所の整備」と回答した方の割合が高くなっている。

• 観光振興に向けて、特に力を入れるべきこと

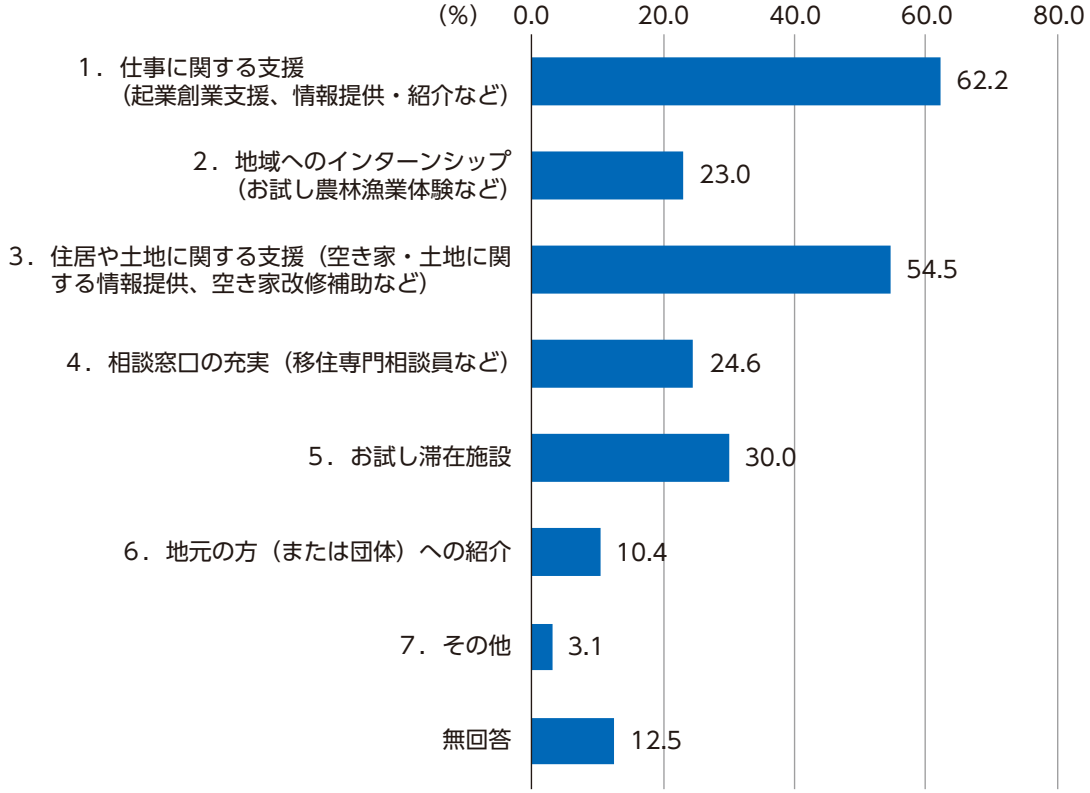
	人数（人）	割合（%）
1．かもめ島などの観光名所や体験プログラムの充実	291	37.3
2．「日本遺産」認定や「日本で最も美しい村」加盟など、まちの付加価値向上	235	30.1
3．旅館・ホテルなどの多様な宿泊施設	393	50.3
4．食事	381	48.8
5．情報発信の強化	226	28.9
6．土産品	298	38.2
7．交通の利便性	310	39.7
8．観光案内所や観光案内標識の充実	153	19.6
9．トイレ	235	30.1
10．ＡＴＭやクレジットカード対応	92	11.8
11．外国語対応	102	13.1
12．町民による温かいおもてなし	185	23.7
13．その他	39	5.0
無回答	57	7.3
全体	781	



「旅館･ホテルなどの多様な宿泊施設」と回答した方の割合が最も高く、ついで「食事」と回答した方の割合が高くなっている。

・移住促進に向けて、特に力を入れるべきこと

	人数（人）	割合（%）
1．仕事に関する支援（起業創業支援、情報提供・紹介など）	486	62.2
2．地域へのインターンシップ（お試し農林漁業体験など）	180	23.0
3．住居や土地に関する支援 （空き家・土地に関する情報提供、空き家改修補助など）	426	54.5
4．相談窓口の充実（移住専門相談員など）	192	24.6
5．お試し滞在施設	234	30.0
6．地元の方（または団体）への紹介	81	10.4
7．その他	24	3.1
無回答	98	12.5
全体	781	



「仕事に関する支援」と回答した方の割合が最も高く、ついで「住居や土地に関する支援」と回答した方の割合が高くなっている。

第５章　町民ワークショップのご意見

★町民ワークショップの主テーマ：「10 年後も夢や希望を持って住み続けられるまち」

①　第１回（７月 25 日木曜日・午後６時 30 分～、文化会館 23 名・水堀コミセン 16 名）

ア　話し合いの視点　　「活力あるマチ」「安心して暮らせるマチ」

イ　話し合いの結果

- 全体を通して「人」が大きなキーワードとなった。
- 人の流れ、人と人とのつながり、笑顔、心などについて、両会場、両テーマ共通して数多くの意見が出された。
- 人口減少や少子化、超高齢化社会に対応した交通体系や子育て環境についての意見も多かった。

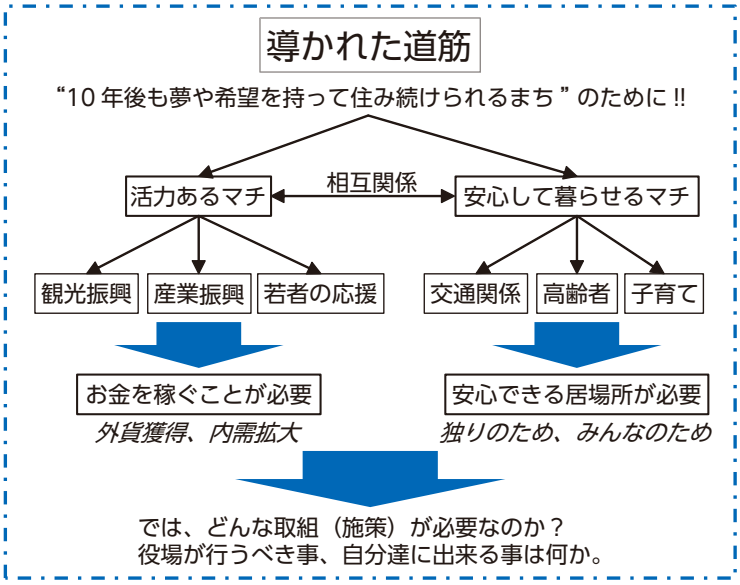
☆活力あるマチであるためには…。
○安全･安心（子ども･高齢者･障がい者）
○超高齢化社会に対応した交通体系
○健康志向への対応（いつでも､誰でも）
○スポーツ環境の整備
○夜の繁華街の活性化
○外貨を稼ぐ
○かもめ島を最大限活かす施策
○本物の歴史・文化（文化財・祭り）

☆安心して暮らせるマチであるためには…。
○安全･安心（子ども･高齢者･障がい者）
○人と人とのつながり
○超高齢化社会に対応した交通体系
○空き地、空き家、空き店舗の有効活用
○医療環境の充実
○働く場所の創出
○職員の資質向上

②　第２回（８月 28 日水曜日・午後６時 30 分～、文化会館 10 名・水堀コミセン 10 名）

ア　話し合いの視点　「活力あるマチ」のためには…　　→「お金を稼ぐ」
「安心して暮らせるマチ」のためには…　→「必要な居場所づくり」

イ　話し合いの結果



第１回でいただいたご意見

• 文化会館Ａグループ　「活力あるマチとは」

スポーツ
- 生涯スポーツができる環境づくり
- 健康づくりにつながる
- 体育館がほしい
- 体を動かす場がある

子ども
- 子どもたちが安心して外で遊べる
- 子育て世代に優しい

飲み屋
- 飲み屋がある
- 花街
- 深夜にラーメンを食べられるところ
- 新地にお店を増やす

人材育成
- 職人の減少
- 海外からの人材
- 人材育成
- 興味を持ってもらい移住
- 江差に定住してもらえるよう呼び込む
- ＳＮＳを利用

文　化
- 発信力
- 芸能文化
- 江差追分
- 文化活動
- 「本物」の発信
- 個性の発信

観　光
- 職業体験そば打ち等
- かもめ島追分ツアー
- 道の駅が充実
- 観光客がもっとたくさん来る
- たば風体験ツアー
- お金を使わせる
- 町民の森のヒバを見る機会が無い
- 町民の森の活用
- 山歩き

交　通
- お年寄りが買い物しやすい環境
- 町内のお店を回ることができるバス等をつくる
- 車がなくても困らない環境
- 巡回バス

漁　業
- 加工場を作り、特産品をつくる
- 栽培漁業で活力

イベント
- いろんな所で夜市
- 町民が交流できるイベント

若　者
- 若い人が働く場
- 個室があるカラオケ店
- 若者がたくさんいるまち
- 人がたくさん歩いているまち
- 職員を巻き込んだ町民の若いグループ

• 文化会館Ｂグループ　「活力あるマチとは」

拠点づくり

- お金をかけなくてもできることがある
- 寄来所のふれあいサロンをもっと使ってほしい
- 寄来所での活動
- 寄来所の寺子屋をもっと町民に知られてほしい
- 空いた施設を活用して普段から交流の場をつくる
- 元カネマツの活用
- 道の駅をうまく使う
- 横と縦と両方のつながり
- まち・人に対する関心
- 社会科見学を増やす
- サークル活動ができる場をつくる
- 大きいスクリーンでゲーム大会
- 世界旅行をしたことがある人の話を聞く
- 祭りには絶対に江差にくる
- 人と人のつながりが強い

教育分野

- 祭りに戻ってくる人は江差にいたいと思っている
- 追分の聞ける居酒屋が増えてほしい
- 三笠の高校生レストラン（仕事を体験しながら学ぶ）
- 学生が自分で職をつかめる
- 人をたくさん残す
- 子どもがたくさん産まれてほしい
- 若い人が江差に増える
- 高校に江差ならではの科目をつくる（民謡など）
- 進学の目的がはっきりしていない人が多い
- 町の人が江差のことをもっと知る
- 飲みながら踊れる場所
- 郷土芸能の時間を増やす

観　光

- 横山家の活用
- 廻船問屋
- かもめ島にエレベーター又はロープウェイの整備
- 町外への情報発信
- トイレが少ない
- 駐車場を増やす
- 郷土芸能を見る場所のＰＲ
- おみやげのＰＲ
- 先生方も観光施設を見てほしい
- 江差ファーストではなく檜山全体を引っ張っていく
- 観光の魅力を上げる

食

- 江差の食といえば何か
- 北海道といえば魚介のイメージ
- 観光客にお勧めできる店がたくさんあるといい
- 紅ズワイガニを食べられる場所
- ウニを増やすために海藻を増やす
- 農産物がたくさんとれてほしい
- 魚がたくさんとれてほしい
- 海産物は外に出ている
- １番は畜産
- 江差ブランドをつくる（ニシンなど）
- 煮しめや豆付、三平汁がおいしい

花

- ひまわりなどの大きな花畑
- 個人宅の花壇でも大きくなれば観光地になる
- いにしえ街道の傾斜地に芝桜
- 季節ごとの花（あじさい等）
- 江差の空き地で趣味コンペを開く

• 文化会館Cグループ　「活力あるマチとは」

魅　力

- 明治維新と関わりのある事業
- 魅力ある素材づくり
- 北海道は歴史のある街
- 日本一の夕日の街を活かす
- かもめ島の景観を観光に活かす
- ミニ水族館
- レトロ商店街の活性化
- 大勢で食事する

宿泊施設

- 景観を活かした宿泊施設
- 宿泊施設の満足度を上げる
- 文化施設を活用した宿泊施設
- 宿泊施設の充実
- 古民家を活かした宿泊施設
- 空き家の利活用
- 田舎の不動産から購入しない
- 不動産が動く

スポーツのまち

- プロスポーツチームの凱旋試合
- スポーツ大会の誘致
- スポーツを気軽に楽しめる環境
- スポーツ合宿の誘致

祭　り

- 姥神大神宮渡御祭について参加が多くきたいと感じる
- 自然・文化・祭りの観光
- 千人パレードで千人を目指す

産　業

- イカなど水揚量の増加
- 養殖漁業による江差の名産
- にしんの活用化

心

- おもてなしの心の観光
- 観光で訪れた人に対する心づかい
- 外部から受入（アットホーム）
- 笑顔を大事に
- 移住してきた人に対する心づかい
- あいさつをする
- 個人の能力を活かす
- 欲を出さず汗を出す
- 人と人のつながり
- 交流を活発に
- それぞれができることをできるだけやる

花

- 担い手の仕事づくり
- 若い人がいること

• 文化会館Ｃグループ　「安心して暮らせるマチとは」

コミュニケーション
- 話し相手
- 仲間づくり
- よろず相談
- 相談できる人がいる
- お互い様の気持ち
- みんなが知り合い（仲間の町）
- 個人食から会食へ

医　療
- 総合病院があると便利
- ホームドクターがいる町
- 夜間のドクターヘリの飛行

買い物
- 買い物する場所
- 近くにスーパーがあってほしい
- 買い物するお店が近所にあってほしい
- 愛宕商店街の存続を考える
- ドローン宅配

交　通
- 買い物、通院等の交通問題
- 移動手段がない
- ２次交通の充実
- 交通機関の充実
- 夜間のタクシー不足
- タクシー券の範囲を広くする
- バスの本数を増やしてほしい
- タクシー券の半額券の配布

ネットワーク
- 趣味のネットワークづくり
- 町民連絡網をつくる
- 居場所づくり
- 町内会で身近な人を大切にする活動をする
- 老人の見守り充実
- 各地域でのコミュニティの場
- イベントによるつながりつくる
- 近所の見回り合い

医　療
- 楽しいことが活力になる
- 楽しいことを考える
- 高齢者の役割を考える
- 高齢者の余暇の充実

文　化
- 祭りの存続を考える
- 自給自足できる町

子育て
- 子育てしやすい環境
- 子どもたちが遊べる室内広場

その他
- 除雪対策
- 空き家整備、利用
- 継続して働ける場所

• 水堀コミュニティセンターＡグループ　「活力あるマチとは」

観　光

- 観光メニューが弱い
- 立体的な町の活用
- 新地からかもめ島までゴンドラを
- 南埠頭の活用
- 海のトンネルの整備
- かもめ島の整備
- 観光資源を活かせていない
- 外資をホテルへ
- 奥尻町を活かす
- 観光案内板等を外国人にも分かるようにする
- かもめ島上の花月を解体し休息施設を造る
- 地形が豊か
- 江差の夕日をアピール（太平洋側の方が見られない）
- 郷土芸能の発表の場を
- かもめ島上部に老人、車椅子でも上がれる工夫

中心市街地の活性化

- 新地が元気になってほしい
- 柳崎を第２の新地町化へ
- 店がなくなってきている
- いにしえ街道に食の場をつくる
- さみしい町になった
- いにしえ街道はもっと良くなる
- 地元にお金を落とす仕組みづくり
- 歩行空間の整備

産　業

- 農福連携
- 漁業の元気がない
- 名産物を生み出す
- 高齢者が集まって米を作る
- 農業が厳しい
- 江差ブランドの価値を再認識
- 育てる漁業の推進
- 生産力の拡大
- 農業はおもしろい
- 農地の無償化

子育て

- 子どもが遊べる場所
- 小・中学校から交流する
- 冒険できる子どもの遊び場
- 若者の元気がない

人の流れ

- 空き店舗を活用（町外の人をいれる）
- 起業家の誘致
- 新しい人の流れをつくる
- 空き家のコンドミニアム
- 雇用を生む

その他

- マンパワーが減少（ＩＴ技術で補う）
- テレワーク
- チャレンジする人の支援
- 後継者問題
- 福祉分野の人の活用

• 水堀コミュニティセンターＢグループ　「安心して暮らせるマチとは」

子育て環境が充実した町
- 安心して遊べる屋内施設の整備
- 子どもたちが安心して遊べる場所がある町
- 子どもたちの多い町
- 学校がなくなると地域が衰退する
- 修学の場所

医療環境が充実した町
- 医療の充実
- 訪問看護の充実
- 往診の充実
- 病院が存続している事
- 地元の病院ではなく函館方面の病院に通う要因を考える

鳥獣対策
- 熊肉の活用
- 熊、鹿被害対策
- 動物被害をなくす
- 人に被害をおよばす動物を駆除し、住みよい環境にする

働ける街
- 檜山振興局の存続
- 働く場所のある町
- 職場の確保
- 町内の仕事の紹介を町として周知する

高齢者
- 高齢者や車のない家庭の移動手段の確保
- 運転免許証の返納をしやすい環境整備

その他
- 農産物の直売所をつくる
- 生活用水の改善
- 北部地域の浄化槽設置
- 山菜を商品で出す
- 住民からの要望は速やかに対処してほしい
- 万が一のときに備えて対策をする
- 空き家対策
- 情報発信の強化
- 悪い人がいない町
- つながりのある町
- 北部地域に備蓄品を集めるビル等の整備
- 町民農園の企画
- 市内と農村の交流対策
- 役場職員の大幅な増員

各料金の緩和
- 水道料金が高い（見直し）
- 介護保険料が高い
- 税金が高い
- 今以上に税金が上がらないこと

第２回でいただいたご意見

・文化会館　第①グループ　検討テーマ「お金を稼ぐ」

私達が考えた『稼ぐための方策』

こんなことが必要！

観光（外貨）	産業の付加価値	地産地消
・宿泊者を増やす ・なべまつりのグランプリを商品に ・飲食店等へのアクセスがすぐ検索できるようなサイトを構築 ・観光の方向性を確立 ・もっとPRを行う ・子どもの遊び場をつくる ・飲食店を活性化	・商品価値のストーリーづくりが大切 ・各宿泊施設が提供する食事で江差らしい統一した品を決める ・ナマコの付加価値を上げる	・産業間で連携強化（農業・漁業・商業） ・地場産を町民が日常的に購入できる仕組み ・給食に地域のものを取り入れる ・地場産を活かす

なので・・・

『観光客に満足してもらう』

を提案します！！

〇目的

江差に足を止めてもらう、泊まってもらう

〇内容・手法

・宿は檜山管内皆同じ食材。「江差らしい」食材の提供

・「観る」「食べる」「体験する」を楽しみ、まずは一日江差に滞在してもらう

〇効果

・食材提供者、宿泊事業者、観光、飲食店の活性化

・リピーターを増やし、より江差の魅力に触れてもらう

・「働く場所」の増加

・各産業間のコラボレーション

• 文化会館　第②グループ　検討テーマ「必要な居場所づくり」

私達が考えた『必要な居場所』

こんなことが必要！

誰のため	解決すべき課題	情報発信
・高齢者が集える ・男性が集える ・気軽に集える ・町内会で集える ・転勤者が集える ・町民同士が集える	・空きスペースが多い ・近くにある拠点づくり ・話し相手がほしい ・町民無料の追分会館で集まる ・人との繋がりがつくれる仕組みが必要 ・老人クラブ活動（会員数）が減ってきている ・スポーツができる屋内施設	・町に広報活動ができる機関があればいい ・アピールや宣伝が必要 ・情報発信が足りない ・広報紙以外のアピール

なので・・・

**『街なかの公共施設等を活用した
ひとの交流の創出と情報発信の強化』**

を提案します！！

〇理由

人とのつながりが薄くなってきているため
（子ども会・老人クラブ・町内会の会員減少、若い夫婦同士のつながり、
転勤者と地元の方のつながり交流）

〇目的

多様な町民の交流場所を確保
（公共施設、民間施設などを活用）

• 水堀コミュニティセンター　第①グループ　検討テーマ「お金を稼ぐ」

私達が考えた『稼ぐための方策』

こんなことが必要！

観光	食
・障がい者が遊べる ・奥尻を観光メニューに入れる ・手ぶら観光 ・厚沢部の道の駅のような産直 ・埠頭の整備 ・かもめ島周辺の整備、活用 ・遊ぶ場所の創出（ゴーカート、セグウェイなど） ・お土産の充実	・江差産のものが食べられる ・朝市のような場所 ・フードコート（複数の飲食店が集合し、座席を共用しているセルフサービス形式の飲食スペースなど） ・江差の看板メニュー（特産品）となるものをつくる ・自分で選んだ海の幸を調理して食べられる ・通年通して食べられる

なので・・・

『かもめ島を活かした食と遊びの空間づくり』

を提案します！！

○理由　観光客を呼び込む

○効果　観光客の増、経済活性化

○内容
- ・手ぶらでできるキャンプ
- ・フードコート
- ・近郊のものを使った丼ぶり

→ **観光メニュー化**

○実施主体　第一次産業者・民間企業（起業支援も含む）など

• 水堀コミュニティセンター　第②グループ　検討テーマ「必要な居場所づくり」

私達が考えた『必要な居場所』

こんなことが必要！

誰のため	解決すべき課題	欲しい機能
・趣味を共有する仲間 ・子どもが安心して遊べる ・学童保育 ・子どもが交流できる	・公園の遊具を充実 ・スポーツができる屋内施設 ・スクールバスの停留所を充実 ・公民館等の開放日をつくる ・買い物に困らない ・自宅を活用	・働ける ・ふれあいサロン ・食事会 ・ドローン講習が受けられる ・夕陽が見える

なので・・・

『趣味を活かせる場所』　『子どもが集える場所』

を提案します！！

〇目的　趣味を通じて交流する
〇対象　子ども・大人
〇効果　趣味がお金になる
〇内容
- ・子どもに昔の遊びを教える
- ・遊具を自作
- ・流木を活用
- ・作品を展示

〇理由　遊具があれば集まれる
〇目的　子どもを通じた交流
〇対象　子ども
〇効果　子どもを通じた親の交流

第６章　用語解説

数字・アルファベット	
３Ｒ	Reduce（減らす）、Reuse（再利用）、Recycle（再生利用）により、廃棄物を削減すること。
ＡＩ	Artificial Intelligence の略。知的行動を人間に代わってコンピューターに行わせる技術。
DMO	Destination Management Organization の略。観光施設、自然、食、風習など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協働して観光地域作りを行う法人。
DMS	Destination Management System の略。観光資源を有効活用するための手法。たとえば、観光ポータルサイトにおいて地域の情報発信や販売促進を行いながら、得られる顧客情報を活用してマーケティングを行うなど、多様な機能を一元化することで観光振興につなげる仕組みが考えられる。
ＩＣＴ	Information and Communication Technology（情報伝達技術）の略。ＩＴが単に技術を指すのに対し、コミュニケーション等の活用法に着目した概念。
ＩｏＴ	Internet of Things の略。デジタル化された映像、音声、写真、文字情報など、様々なモノがインターネットを経由して伝達されること。
Ｉターン	都市部から出身地とは違う地方に移住すること。
Ｊターン	生まれ育った故郷から進学や就職で都会に移住した後、故郷に近い地方都市に移住すること。
ＮＧＯ	Non-Governmental Organization（非政府組織）の略。国家の枠を超え、経済的利益を目指さない活動を行う市民団体。
ＮＰＯ	Non-Profit Organization（非営利組織）の略。経済的利益を目指さない社会貢献活動や非営利活動を行う市民団体。
Society5.0	ＩｏＴにより、すべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出す社会。
Ｕターン	地方から都市に移住した人が、再び故郷に戻ること。
Wi-Fi	パソコンやスマートフォン等のネットワーク接続に対応した機器を、無線でインターネットに接続する技術。
あ行	
イノベーション	新しい技術の発明。またそこから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会に対し広範な変革をもたらすこと。
イベント民泊	イベント開催時に宿泊施設の不足が見込まれる地域において、自治体の要請等により自宅を提供すること。

あ行	
インスタグラム	Facebook,Inc が提供する無料の写真共有アプリケーション（SNS）。
インバウンド	外国人の訪日旅行。
インフラ	インフラストラクチャーの略。産業や生活の基盤として整備される公共施設。
インフルエンサー	SNS などを通じて、他の消費者の購買行動に大きな影響力を持つキーパーソン。
か行	
関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者のこと。関係人口の増加により、地域外の人材が地域づくりの担い手となることの波及効果が期待できるとされている。
観光マネジメント人材	観光振興のために、各企業の経営にとどまらない事業横断的なマネジメント能力を持った人材。
キャッシュレス	現金を使用しなくても活動できる状態。
クールビズ	冷房の節約を目的として行われる、夏季に衣服を軽装化する取り組み。
グローバル・パートナーシップ	世界平和・環境問題等の世界的問題を解決するための、地球規模の協力関係。
公共交通機関	自家用車のような個人利用ではなく、不特定多数の人々が利用する交通機関。
耕畜連携	米や野菜等を生産している耕種農家へ畜産農家から堆肥を供給したり、転作田等で飼料作物を生産し畜産農家の家畜の飼料として供給する等，耕種サイドと畜産サイドの連携を図ること。
国民皆保険制度	すべての国民が何らかの公的医療保険に加入し、お互いの医療費を支え合う制度。
コンテンツ・マネジメント・システム	Ｗｅｂサイトを管理するにあたり、簡易に記事や画像を登録・更新できるシステム。
さ行	
サードプレイス	自宅（ファーストプレイス）や職場（セカンドプレイス）ではない、息抜きができる場所。
ジェンダー	社会的・文化的な性差。ある社会・文化における、男女それぞれにとってふさわしいと考えられる社会的役割・思考・行動等のこと。
シティプロモーション	地域の売り込みや自治体名の知名度向上に向けた取り組み。
シームレス交通	交通機関の乗継等の、距離的・時間的な継ぎ目が解消された交通網。
スマート自治体	ＡＩ等の活用により、人口減少が深刻化しても持続可能な形で行政サービスを提供し続ける自治体。

さ行	
スマート農業	ロボット技術や情報通信技術（ＩＣＴ）を活用して、省力化、精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業。スマート農業を活用することにより、農作業における省力・軽労化を更に進められる事が出来るとともに、新規就農者の確保や栽培技術力の継承等が期待されている。
そ族	ねずみを指す。有害な細菌を保菌し、生活衛生環境に悪影響を与えるおそれがあるため、駆除の対象とされる。
た行	
地域ブランディング	地域固有の資源等を、製品やサービスとして発信し、ブランドとして認知してもらう活動。
テレワーク	ＩＣＴを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。
特別支援教育	障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う教育。
な行	
農業水利施設	河川やため池等から、農業に必要な水を取るための水利施設。
ノルディックウォーキング	２本のポール（ストック）を使って歩行運動を補助し、運動効果をより増強するフィットネスエクササイズ。
は行	
バリアフリーレジャー	障がい者等の多様な人が参加することを考慮した体験観光プログラム等。
人・農地プラン	農業者が話合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業や農地の将来のあり方などを明確化した計画。
ポータルサイト	インターネットにおける玄関に相当するウェブサイト。検索エンジンやリンク集が掲載されている。
ポテンシャル	潜在する力のこと。
ま行	
モータリゼーション	自動車が単に輸送機関としてだけでなく、市民生活の中に入り込んできている文化的・社会的状態。
や行	
有効求人倍率	企業からの求人数（有効求人数）を、公共職業安定所（ハローワーク）に登録している求職者（有効求職者数）で割った値。景気を測る指標として活用される。
ら行	
リノベーション	既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や機能を変更して性能を向上させたり付加価値を与えること。リフォームよりも大規模な改修をいう。













第６次江差町総合計画

第２期江差町人口ビジョン
第２期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略

発行年月　令和２年３月
発　行　江 差 町

〒043-8560　北海道檜山郡江差町字中歌町 193 番地 1
TEL（0139）52-1020　FAX（0139）52-0234
https://www.hokkaido-esashi.jp/
企画・編集　まちづくり推進課